

国 語

注 意

1. 問題は全部で21ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 日本文学科受験者は問題四も解答すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ときに人は、たった一つの言葉を見つけるために、人生のある時期を費やさなければならぬことがある。しかし、その言葉と出会うことができたなら、けっして徒勞だったとは思わないだろう。一つであつても言葉は、人生を根本から変えることがある。むしろ、言葉だけが、そうした力をもっている。

私たちは多くの言葉を知っている。だが、知ることと生きることとは違う。知ることは、しばしば対象の周辺をなぞることに終わる。しかし、生きるとき、人はそれと深く交わらざるを得ない。ある仕事について知るといふことと、ある仕事を生きることが大きく異なる。仕事の労苦を身をもつて感じている者だけが、そこにヒソソヒソソんでいる喜びを見出すことができる。

それは言葉でも同じだ。ある言葉と、本当の意味で交わることができれば、困難は困難のままでも人はそれを生きぬくことができるように思われる。私の場合はそうだった。だが、やはり私もそうだったように、人はしばしば、自分が出会うべきものが言葉であることを見失っていることがあるかもしれない。

近しい人を喪うしない、半身を失つたように生きていた時期がある。そのときに偶然、次の一節に出会った。書いたのは「民藝」^{*}の提唱者であり、宗教哲学者でもあつた柳宗悦（一八八九—一九六一）である。

一九二一年に彼は、最愛の妹を異郷で喪う。彼女は出産後、体調が急変し、亡くなったのだつた。柳は妹の生涯を語る「妹の死」と題する文章を書き、その終わりに次の一節を添えた。

おお、悲かなしみよ、吾わがれ等らにふりかかりし淋しみしさよ、今にして私はその意味を解き得たのである。おお、悲かなしみよ、汝おんがなかつたなら、こうも私は妹を想わないであろう。愛を想い、生命を想わないであろう。悲かなみに於おて妹に逢あい得るならば、せめても私は悲かなみを傍かたわらに近くに呼よぼう。悲かなしみこそは愛の絆である。おお、死の悲哀よ、汝おんよりより強く生命の愛を吾わがれに燃もやすものが何処どこにあるう。悲かなみのみが悲かなみを慰めてくれる。淋しみしさのみが淋しみしさを癒なしてくれる。涙なみだよ、尊たき涙なみだよ、吾わがれ御おん身に感謝す。吾

れをして再び妹に逢わしむるものは御身¹の力である。

悲しむことがなければ、自分はこれほど妹を思うことはなかった。悲しみにおいて亡くなった妹と出会っている、と柳は感じる。悲しみを遠ざけることを願うのではなく、むしろ、「A」と書く。悲しみを真に慰めるのは、2悲しみを深く生きたことであることを知る。悲しみは、愛と同義であるとまでいう。

さらに柳はここで、「悲み」にも、「涙」にも、汝と呼びかけている。悲しみを生きる彼にとって「悲み」とは、すでに感情の傾きではなく、かけがえのない人生の出来事であり、「涙」は、頬をつたう体液ではなく、何者からか遣わされた沈黙の使者となっている。「悲み」も「涙」も、彼には悲痛に苦しむ自分に、静かに寄り添う妹であると感じられている。涙となって妹がそばにいると彼は思う。

読者のなかで、悲しみを経験したことはない人はいないだろう。ことさらに語ることはなくても、誰もが悲しみの経験を宿している。悲しみは、もつとも平等に与えられた人生の出来事なのではないだろうか。人は、喜びによってより悲しみによって、他者と、強く、深くつながっているとすら思われる。

同じ悲しみは存在しない。悲しみの重さを比較することはできない。存在するのはいつも、かけがえのないたった一つの悲しみだけだ。だが、すべての人が、その固有の経験を大切にしているとは限らないのかもしれない。誰もが大切にしたいと思っているのだが、世の中の風潮が、悲しみに宿った意味をBにしているように思われる。震災以後はとくにその傾向が著しい。静かに悲しみと向き合い、それを生き抜こうとする人々に、がんばれと声をかけ、励ましてきたのではなかったか。

悲しむ者をいたずらに励ましてはならない。そうした人々が切望しているのは安易な激励ではない。望んでいるのは、涙がそうであるように、だまって寄り添う者ではないだろうか。さらに言えば、励ましとは、がんばれというような一方的な言葉をかけることではなく、3容易に言葉になろうとしない相手の感情を写し取ろうとすることではないだろうか。語られない励ましが、かえって深く人を癒すこともあるだろう。

先の柳の言葉に出会ってから、悲しみは私の中で、まったく姿を変えた。悲しみは悲惨な経験ではなく、むしろ、人生の秘密を教えてくれる出来事のように感じられるようになった。私の悲しみを慰めたのは悲しみという言葉だった。⁴その言葉を生き始めたとき、世界は一変した。状況が変わったのではない。私が変わったのである。

また、悲しみに生きる人は——たとえ、その姿が悲痛に打ちひしがれていても——私の目には勇者に映る。勇氣とは、向こう見ずの勇敢さではなく、人生の困難から逃れようとせず、その身を

C

して生きる者を指す言葉になった。

悲しみを不幸と結びつけることで終わっている考え方からすれば、柳の思想は矛盾に満ちている。だが、悲しみを生きている者に説明はいらないだろう。悲しみの経験は、痛みの奥に光を宿している。悲しみの扉を開けることでしか差し込んでこない光が、人生にはある。その光によってしか見えてこないものがある。

分かるということは変わることだ。ある出来事にふれ、真に分かったとき人は、どこかで変貌しているのである。これは素朴な理法だが、ときに厳しく迫ってくる。変わっていないのであれば、じつは分かっていることが露呈してしまう。哲学者の池田晶子(一九六〇～二〇〇七)は、分かることと変わることとにふれ、次のように書いている。

この本に書いてあることを自分で考えて、自分の知識として確実に知ったのなら、君の生き方考え方は、必ず変わる。変わるはずなんだ。本当に知る、「わかる」とは、つまり、そういうことなんだ。

〔14歳からの哲学〕

書名にあるように池田は、十四歳の若者にむかってこう呼びかけている。

「この本に書いてあること」と彼女がいうのは、自分の発言を指しているのではない。彼女は「自分の言葉」、「自分の考え」というものをまったく信用していなかった。彼女がもっとも敬愛していた哲学者はプラトンである。(前四二八／前四二七～前三四八／前三四七)哲学の祖といつてよいこの人物にとつて、知るとは、すべて想い出すことだった。

新しく知るといふことはない、とプラトンはいう。人間が知らなくてはならないことはすべてその魂に宿っている、より正確

にいえば、魂を扉にした「眞実存^{イデア}界と呼ぶべき世界にすでに存在している

と考える。プラトンはそうした働きを「想起」と呼んだ。彼にとつて哲学とは、不斷に想起する営みだった。したがって、池田がいう「この本に書いてあること」とは、それを読む者の心にもとも宿っていること、と置き換えてよい。内なる観知⁵の存在に気がつきさえすれば、人は必ず変わる、と池田はいうのである。

別なところで彼女は、「わかる」という表現にふれ、「分かる」と漢字で書くようにそれは、自ら内から観知が分かれ出る経験を指すのだ、と語ったことがある。また、何かを本当に理解したとき、人はほとんど無意識に「分かった」と思わず過去形で口にする。こうした行為にも、知るべきことはすでに私たちの内に存在していることが示されているといった。

そう考えると、出会うべき言葉は誰もが、すでに自分の手に握り締めているということになる。生きることは、自分の中にすでにあつて、見失っている言葉と出会うための道程だとも言えるかもしれない。だが、その言葉は、必ずしも言語の姿をしているとは限らない。奇妙に聞こえるかもしれないが本当だ。言語は、無尽にある言葉の一形態に過ぎない。

このことは、言葉という表現を意味の塊と置き換えるとよくわかる。私たちは日常生活のさまざまなところで意味を感じている。言語以外の呼びかけにも意味を感じることは少なくない。

朝、日が昇るのを見て美しいと思う。それにとどまらず、ある充実を感じる。あるいは深い畏敬の念を感じる者もいるだろう。鳥のさえずり、川の流れ、私たちは万物の動きに意味を感じることができる。逆の言い方をすれば、世界は人間に読み解かれるのを待っているようにさまざまの意味を語っている。

(若松英輔『生きる哲学』による)

(注)

*民藝Ⅱ民藝運動のこと。一九二六年、柳宗悦らによつて提唱された生活文化運動。名も無き職人によつて作られる日常生活の道具を「民藝」と名付け、その美と価値を広めようとした。

*震災Ⅱ二〇一一年三月一日に発生した東日本大震災のこと。

問一 二重傍線部「ヒソ」を適切な漢字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

問二 傍線部1「御身」とは、ここでは何のことか。文中の一語で答えよ。解答用紙(その2)を使用。

問三 空欄 A に入る最適な言葉を文中より十二字以内で抜き出せ。解答用紙(その2)を使用。

問四 傍線部2「悲しみを深く生きたること」とあるが、どのような意味か。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

① 悲しい出来事や経験が続き、悲嘆に暮れる生活を送ること。

② 悲しみの中にいる人に、深い愛情をもち、静かに見守ること。

③ 悲しみに沈んでいる時でも、いつも明るく、希望を失わずに生きていくこと。

④ 悲しい出来事や経験を避けるのではなく、それとしっかり向き合い、生き抜こうとすること。

⑤ 悲しい出来事や経験に対して、その理由や原因を深く考え、二度と繰り返さないように努力すること。

問五 空欄 B には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

① 大切

② 複雑

③ 面倒

④ 濃厚

⑤ 希薄

問六 傍線部3「容易に言葉になろうとしない相手の感情を写し取ろうとすること」とあるが、どのような意味か。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

① 心のこもった簡単な言葉で、相手の感情に訴える励ましをすること。

② 簡単には言葉で表されない相手の気持ちを理解し、寄り添おうとすること。

③ うまい言葉で励まそうと思わずに、素直な気持ちを相手に伝えようとする事。

④ 励ましを適切な言葉で表すのは難しいが、相手の気持ちを考えて、励まそうとすること。

⑤ 気持ちを伝えることが難しい相手に対して、その気持ちを察して、励ましてあげること。

問七 傍線部4「その言葉を生き始めたとき、世界は一変した」とあるが、どのような意味か。その説明として最適なものを次の

①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

① 悲しみについての柳宗悦の言葉を知ってから、自分の人生観が変わったということ。

② 悲しいという言葉の意味を深く考え生きていくようにしたら、自分も周りの人々も変わったということ。

③ 悲しみから逃げず深く向き合い始めたとき、悲しみは人生を教えてくれる出来事となり、自分自身が変わったということ。

④ 悲しいという言葉を繰り返しているうちに、段々と悲しみが薄れていき、自分の気持ちも変化していったということ。

⑤ 悲しみという人生の秘密を教えてくれる出来事があったから、自分の世間に対する見方が大きく変わったということ。

問八 空欄 **C** に入る最適な漢字を次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **5**。

① 懲 ② 隠 ③ 任 ④ 賭 ⑤ 決

問九 傍線部5「内なる叡知」は池田の言葉の引用であるが、筆者は文中でこれをどのようなものであると述べているのか。その

説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **6**。

① すでに自分の中にあつて気づいていない出会いべき言葉。

② 人間なら必ず自分の中にあり、自分では気づいていない理性や感性。

③ すでに自分の中にあつて気づいていない、見失っている真の自己、個性。

④ それまでの人生において蓄積されてきた、すでに自分の中にあるさまざまな知識や経験。

⑤ 人間が知らなければならない、そしてすでに自分の中にあつて気づいていない自己の存在理由。

問十 傍線部6「その言葉は、必ずしも言語の姿をしているとは限らない」とあるが、筆者の考えに基づき、言語の姿をしていない言葉に当てはまらないものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **7**。

① 謝辞 ② 孤独感 ③ 淋しさ ④ 畏敬の念 ⑤ 夕陽の美しさ

問十一 本文の内容と合っていないものを、次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 大切な人を亡くし、その人を想い涙に暮れる経験も悲惨なことではない。
- ② 仕事で苦勞し、その困難を乗り越えた者だけが、本当の仕事の喜びを得ることができる。
- ③ 悲しみの中にいる人には、周りの人々の力強い励ましの言葉が何よりも支えとなり必要である。
- ④ 悲しみの経験は、そこから逃げようとせず懸命に生きる人にとっては、新たな人生へと導く光となる。
- ⑤ 何かを本当に理解したり、ある経験をjして何かが分かったと思うと、その結果、人は必ず変わるものである。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

中野より府中あたりを武蔵野といふ。季経卿の歌に、

武蔵野の萩や薄^{すすき}をほりすてて植ゑておかばや瓜や茄子^{なすび}を

と詠みたまひし願ひのごとく、今は田畑になりて、一村一村の民家おびただしく、瓜茄子をはじめ、菜大根惣じての野菜を、毎日、馬にて江戸へ付け出す。しかれども、芋¹は多^{*}く芋多くて、真芋^{*}少なし。その故は、猪、真芋を好きて掘り食ふ故に、百姓の屋敷構への内¹にのみ作る故なりといふ。

陶々斎と遺佚とここへ行きて、「さてさて広きことかな。月²の入るべき山もなし草より出でて草に入る」と言ひしもことわりなり。これを本歌にして一首まゐらせんとて、陶々斎が詠む。

武蔵野は名のみばかりぞ家つづき軒より出でて軒にこそ

A

遺佚が言ふ。「よき歌なり。まことに聞き及びしより広き野なり。『行けども秋の果てはなし』と詠みたる歌もあり。これを本歌にして、返し、

武蔵野は行けども家の果てぞなきいかならんまに乗りてめぐらん

陶々子がいふ。「この歌よきとも思はれず。『乗りてめぐらん』といへども乗り物なし。馬も駕籠^{かご}もならず。せめて大八車になりとも乗りたらよからう」といふ。遺佚がいふ。「乗り物こそあれ。『いかならんまに』と

B

を詠み入れたり。隠し題にか

やうに詠むことは、稀⁴なる歌人なるべし。その方の歌にこそ、軒より出づるものもなければ、入るものもなし」と笑ひたまへば、陶々子がいふ。「隠し⁵題をさのみ慢じたまふな。我も『家つづき』と

C

を隠して詠みたり。いざさらば、とてもこの

とに武蔵野を大きに詠まん」とて、陶々子が詠む。

西は富士東は海の名のみして雲も霞も武蔵野の原

遺佚が詠む。

☆武蔵野のながめの末にたくへては富士やさながら草の上露

(戸田茂睡『紫のひともと』による)

(注)

*季経卿 四辻季経。室町時代の歌人。ただし、この歌は正しくは、鎌倉時代の歌人、藤原定高の作。

*あごい あくが強くていがらっぽい、の意。

*真芋 味のよい里芋類。

*陶々斎と遺佚 いずれも架空の人物で、この二人が江戸各地を歩きつつ土地柄を紹介するという趣向。遺佚は作者の分身的人物。

*「月の入るべき山もなし」 『武蔵野は月の入るべき山もなし草より出でて草にこそ入れ』(作者未詳)による。

*「行けども秋の果てはなし」 『武蔵野やゆけども秋の果てぞなきいかなる風か末に吹くらむ』(『新古今集』秋上、源通光)による。

*陶々子 陶々斎と同じ。

*隠し題 歌の意味内容と関係なく事物の名称を詠み込むこと。

問一 傍線部Ⅰ「芋はゑごい芋多くて、真芋少なし」とあるが、作者が述べているその理由として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 猪に食われた後の芋は、みな味の悪い芋になってしまったため。
- ② 真芋はせっかく植えても猪に食われてしまい、少ししか収穫できないため。
- ③ 猪に食われない用心に、真芋は屋敷内の狭い敷地にしか植えられないため。
- ④ 真芋は猪に食わせるために植えており、「ゑごい芋」だけが食用と信じているため。
- ⑤ 味のよい芋は、猪に食われる前に屋敷の百姓がみな食べてしまうため。

問二 傍線部Ⅱ「月の入るべき山もなし」という歌は、何を詠もうとした歌か。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10。

- ① 武蔵野の平坦さ
- ② 武蔵野の広大さ
- ③ 武蔵野で見る月の美しさ
- ④ 武蔵野の草の美しさ
- ⑤ 武蔵野の荒涼とした様

問三 文中の空欄 A

A

には、動詞「入る」の活用形が入る。適切な形に活用させて記せ。解答用紙(その2)を使用。

問四 傍線部Ⅲ「乗りてめぐらん」といへども乗り物なし」の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11。

- ① 「乗りてめぐらん」と詠まれているけれども、実際には乗り物に乗る必要はない。
- ② 「乗りてめぐらん」と詠まれているけれども、武蔵野に乗り物などはない。
- ③ 「乗りてめぐらん」と詠まれているけれども、現実には金がかかって乗り物などには乗れない。
- ④ 「乗りてめぐらん」と詠まれているけれども、乗り物が詠み込まれていない。
- ⑤ 「乗りてめぐらん」と詠まれているけれども、私は乗り物に乗るのはきらいだ。

問五 文中の空欄 **B** に入れるのに最適な語を次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **12**。

- ① 馬
- ② 駕籠
- ③ 大八車
- ④ 戸板
- ⑤ 欄間

問六 傍線部4「稀なる歌人なるべし」に籠められた感情として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **13**。

- ① 軽蔑
- ② 驚嘆
- ③ 自慢
- ④ 称賛
- ⑤ 批判

問七 傍線部5「隠し題をさのみ慢じたまふな」の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **14**。

- ① 「隠し題」をそんなふうに使ってはなりません。
- ② 「隠し題」ばかりを多用しないで下さい。
- ③ 「隠し題」はそれほど遠慮することはありません。
- ④ 「隠し題」にそれほど感動すべきではありません。
- ⑤ 「隠し題」をそんなに誇らないで下さい。

問八 文中の空欄 **C** に入れるのに最適な語を次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① 家
- ② 草
- ③ 心
- ④ 月
- ⑤ 村

問九 ☆印「武蔵野の」の歌の大意として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 武蔵野を眺め尽くした目で見れば、富士の雄大さもしょせんはかないものに感じられることだ。
- ② 武蔵野の景観の隅っこにあるため、大きな富士にも感動できないことだ。
- ③ 武蔵野を眺めた後で見ると、富士の山もただ高いだけでとるに足らないものに感じられることだ。
- ④ 武蔵野の荒涼とした風景を眺めてから見ると、富士はまるで輝く露のように美しく感じられることだ。
- ⑤ 武蔵野の眺めの雄大さに較べれば、富士も草の上に置いた露のように小さく感じられることだ。

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

* 手塚治虫が書いたマンガ指南書、『漫画のかきかた』（一九五六年）と『マンガの描き方』（一九七七年）には、ほとんど同じ趣旨のことが書かれている。

（漫画は、だれにでもかけます。）（『漫画のかきかた』まえがき）

（描きたいものを思うがままに描きなぐる、（略）漫画なら、きつとあなたにも描けます。）（『マンガの描き方』第1章）
はつきりいって、これは嘘である。

マンガのうまいのもいれば、箸にも A にもかからんのもいる。当たり前のことだ。そう簡単にマンガが描けるわけではないのだが、手塚的に考えるとそういうことになるのだ。

手塚からすると、マンガの根本はアイデア、発想だ、というところがある。だから、彼のマンガ入門書には、マンガを描く道具や順序、構図と並んで、必ず発想法やストーリーの起伏の作り方、起承^あテン^くケツ^くの基本、人物設定や誇張法などが強調される。

当たり前じゃないか、と思われるかもしれない。マンガ入門書なんて、そもそもそういうものじゃないか、と。ところが、さ¹にあらず。

アメリカのコミックスのハウツー本には、道具、順序、効果的な構図、人体の筋肉、男女のプロポーションの違い、遠近法、擬音の種類などはあつても、発想法だけのストーリーの作り方などというものは、ほとんどない。とにかく徹底的にうまい絵を描く方法が書かれている。

これは、たぶんアメリカと日本のマンガ事情の違いのせいだ、アメリカでは絵を描く人はたいがい絵しか描かないのである。話は脚本家が書き、コマに割るのは構成作家がやる、というぐあいに分業制になっているのだ。

手塚が（マンガは誰にでも描ける）というのは、発想の転換や誇張は誰にでもできる、という意味でもある。同時に、日本のマ

ンガが、作家ひとりでアイディアから絵まですべてをこなす制度になっていることも意味している。

日本では、たとえば『鉄腕アトム』や『ブラック・ジャック』は、アニメになろうとオモチャになろうと、やはり手塚治虫のものである。アメリカでは、『バットマン』も『スーパーマン』も、誰が描こうと出版社のキャラクターであつて、集団制作によるブランド品なのだ。

また手塚が、アイディアこそがマンガだと強調したことの裏には、おそらく彼の本画(純粹絵画・日本画)コンプレックスがあつた。彼の絵は、デイズニーなどのアニメや、戦前の子供マンガに影響を受けた丸っこい記号的なマンガ絵で、アカデミックな絵画修業を基礎にしたものではなかつた。手塚は終生そのことに劣等感を持っていて、とくに大友克洋が売れ出した頃にはしきりに、『自分は本格的なデッサンをやっていないから……』などということを書いたりしている。

確かに絵画的な見方をすれば、欧米のマニア向けマンガのレベルは、日本の比ではない。けれど、大友マンガの本当の面白さが絵の芸術性にあるのではなく、マンガ的な語り口、絵とコマ構成の妙にこそあるように、日本マンガの面白さは絵画的なレベルでは決まらない。その面白さの起源をたずねれば、手塚治虫による戦後マンガの表現革命にいたる。絵とコマ構成によるマンガ表現の仕組みを革新し、現在世界に冠たる日本マンガの基礎を築いたのは、他ならぬ手塚治虫なのである。

何が『世界に冠たる』由縁なのか？

先の指南書の中に、顔の表情を作る要素を眉、目、鼻、口に分解し、その組み合わせで表情パターンを作ってみせるところがある。手塚が戦後初期にやったことの一つは、これら表情要素を様々に工夫して組み合わせ、多様な心理表現を可能にし、それによつて複雑な心理劇をマンガで可能にしたということだ。手塚以前のマンガの表情は、はるかにシンプルなものだ。初期手塚マンガの、まるでドストエフスキーのような心理劇的場面は、手塚の表情手法の開発によつてはじめて可能になつたのである。

また同書に、「見えない線を描こう」という項がある。ここでは『動線』というマンガ独特の、動作をあらわす『残像』のような線の手法や、様々なマンガ的な記号表現が並べられている。「漫画独特の表現」とされた記号的表現は、これだけ見るといささか古

いものに見えるが、今でも使われている。ただ、最近が目立たないように抑制して使うことが多いので、ここで例示されているように派手には使わないのだ。

たとえば、「漫画独特の表現」で（不満）とされた焦げた煙のようなもの、（ショック）とされた汗などは、気づかないほど抑制されてリアルな劇画などにも描かれている。これらのマンガ的な記号は、汗のように目に見えるものでも、実際には汗をかかない場面に描いて「焦り」を意味したり、また動線のように目に見えない動きを意味したりして、漫画の意味や時間を作り上げる重要な表現要素なのである。

そして、これらの、もともとアニメや戦前のマンガでも使われていた記号を徹底的に駆使し、文における修飾語のように意味体系として秩序づけていったのも、初期手塚マンガであった。さらに、怒りの湯気の中に目や口を描いたのは自分の考案だと文中にあるように、これらの記号に工夫を重ねていった。このことで、日本の戦後マンガは、飛躍的に表現枠を広げたといえる。手塚は自分の絵を、こうした表現類型や記号的表現の順列組み合わせのように見なしていた。いつてみれば、漢字の構成のよ
うに、だ。

漢字は、ヘンとツクリがあり、B があれば水に関する漢字というように、各々の部分の意味の組み合わせで全体が分かる。しかも、漢字の部分のおおもとは、象形文字、画像的な記号だった。漢字は、その基礎的な記号群の意味を知っていると、あとは組み合わせで意味やイメージを作ることができる。

³ 手塚はマンガの絵を、無意識に漢字と同じように考えたのだと思う。彼の、記号に分解できるマンガ絵の手法は、漢字を解する日本人にとって受け入れやすい手法だったはずだ。だからこそ多くの後継者が、その組み合わせを学び、多少絵は下手でも話を展開することができた。そして話や発想が面白ければ、読者は喜んで読んだのだ。

かくて、手塚以降の戦後マンガは、このはじめから漢字的な描きやすさと受け入れやすさをもっていた。そう考えると、どう見ても下手な絵なのに、面白いマンガがこの日本でこそ可能だった理由もわかる気がする。漢字には確かに、下手にしか書けなくても、書き順が違っても、意味や面白さを伝える力が、それと別にあるからだ。

（夏目房之介『マンガの力』による）

(注)

*手塚治虫Ⅱマンガ家・映像作家。昭和戦後期のマンガ界の第一人者として知られている。

*大友克洋Ⅱマンガ家・映像作家。緻密な画面構成で知られる。代表作に『AKIRA』などがある。

*ドストエフスキーⅡ十九世紀後半のロシアを代表する小説家。代表作に『罪と罰』『カラマーゾフの兄弟』などがある。

問一 文中の空欄 A に、適切な漢字一文字を入れよ。解答用紙(その2)を使用。

問二 波線部 a「テンケツ」を漢字に改めよ。解答用紙(その2)を使用。

問三 傍線部 1「さにあらず」とあるが、どうしてそのように言えるのか。その説明として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 17。

- ① 日本でもアメリカでも、マンガ入門書にはうまい絵を描く方法はあまり書かれていないから。
- ② アメリカのマンガ入門書では、つねに人物設定や誇張法の必要が強調されているわけではないから。
- ③ 手塚のマンガ入門書と、アメリカのマンガ入門書との間には、意外に共通点が多いから。
- ④ アメリカのマンガ入門書は、必ずしも発想法やストーリーの作り方には言及していないから。
- ⑤ アメリカのマンガ入門書は、絵とストーリーとの関係について多くの説明を費やしているから。

問四 傍線部 2「欧米のマニア向けマンガのレベルは、日本の比ではない」とあるが、ここではどのような意味か。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

- ① 欧米のマニア向けマンガの語り口とコマ構成の技術は、日本とは較べものにならないほど高い。
- ② 欧米のマニア向けマンガの画力のレベルは、日本よりもはるかに低い。
- ③ 欧米のマニア向けマンガの絵画的な技術のレベルは、日本とは比較にならないほど高い。
- ④ 欧米のマニア向けマンガのストーリー構成の面白さは、日本とは比較にならないほど高い。
- ⑤ 欧米のマニア向けマンガの絵的な魅力は、日本のそれとは異質なもので、優劣を比較することには意味がない。

問五 二重傍線部「由縁」の読みとして最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① えにし ② もとずえ ③ ゆえん ④ ゆかり ⑤ りゆう

問六 文中の空欄 **B** に入れるのに最適なことを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **20**。

- ① クサカムリ ② サンズイ ③ シンニヨウ ④ ミズトリ ⑤ リッシンベン

問七 傍線部「手塚はマンガの絵を、無意識に漢字と同じように考えたのだ」とあるが、この語句の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

- ① 手塚はマンガの絵を、漢字と同様の記号的表現の組み合わせだと考えた。
② 手塚はマンガの絵を、漢字と同様に視覚的印象のレベルで考えた。

- ③ 手塚はマンガの絵を、漢字と同様に後天的に身につけられるものと考えた。
④ 手塚はマンガの絵を、漢字と同様に誰にでも習得できるものとして考えた。

- ⑤ 手塚はマンガの絵を、漢字と同様に描き手には決められない既定のものとして考えた。

問八 この文章の内容と合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

- ① マンガに描かれる焦げた煙のようなものや汗は、現実のものではなく、人物の心理の記号的表現である。

- ② 手塚治虫は、マンガの面白さの本質は絵の上手下手にはないと考えていた。

- ③ 日本では、同じマンガ作家がストーリーを考え、絵も描くのが通例である。

- ④ 手塚治虫は、様々な表情要素を組み合わせることで、複雑な心理表現をマンガに持ちこんだ。

- ⑤ 手塚治虫は、漢字を使用する日本人にしか理解できないような手法でマンガを描いた。

以下の問題は、日本文学科受験者のみ解答すること。

四 次の文章は『枕草子』の一節である。この時期、中宮定子は兄弟の藤原伊周・隆家が叔父にあたる藤原道長との権力争いに敗れたため、宮中から下がって謹慎していた。定子に仕えていた清少納言は、道長方に内通していると噂され、実家へ退出していた。以上の状況を踏まえて、次の文章を読んで後の問に答えよ。

* 右中将おはして、物語したまふ。「今日、宮にまゐりたりつれば、いみじうものこそあはれなりつれ。女房の装束、裳、唐衣、折にあひ、たゆまで候ふかな。御簾のそばのあきたりつるより見入れつれば、八、九人ばかりの朽葉の唐衣、薄色の裳に、紫苑、萩などをかしうてる並みたりつるかな。御前の草のいとしげきを、『なか。かきはらはせてこそ』と言ひつれば、『ことさら露置かせて御覽すと』と、宰相の君の声にていらへつるが、をかしうもおほえつるかな。『御里居、いと心憂し。かかる所に住ませたまはむほどは、いみじきことありとも、必ず候ふべきものにおほしめされたるに、かひなく』と、あまた言ひつる。³ 語り聞かせたてまつれとなめりかし。まゐりて見たまへ。あはれなりつる所の様かな。台の上に植ゑられたりける牡丹などの、をかしきこと』などのたまふ。「いさ、人のにくしと思ひたりしが、またにくくおぼえはべりしかば」と、いらへ聞こゆ。おいらかにも笑ひたまふ。

げにいかならむと思ひまゐらす御けしきにはあらで、候ふ人たちなどの、「左の大殿方の人知る筋にてあり」とて、さしつどひものなどいふも、下よりまゐる見ては、ふと言ひやみ、はなち出でたるけしきなるが、見ならはずにくければ、「まゐれ」などたびたびある仰せごとをも過ぐして、げに久しくなりにけるを、また宮の辺には、ただあなた方に言ひなして、そら言なども出で来べし。

例ならず仰せごとなどもなくて、日ごろになれば、心細くてうちながむるほどに、長女、文を持て来たり。「御前より、宰相の君して、しのびてたまはせたりつる」と言ひて、ここにさへひきしのおるもあまりなり。人づての仰せ書きにはあらぬなめ

りと、胸つぶれて、とく開けたれば、紙にはものも書かせたまはず、山吹の花びらただ一重を包ませたまへり。それに、「言は
で思ふぞ」と書かせたまへる、いみじう、日ごろの絶え間嘆かれつる、みななくさめてうれしきに、長女うちまもりて、「御前に
はいかが、ものの折ごとに思し出できこえさせたまふなるものを。誰にもあやしき御長居とこそはべるめれ。などかはまぬらせ
たまはぬ」と言ひて、「ここなる所に、あからさまにまかりてまゐらむ」と言ひて、去ぬる後、御返りごと書きてまゐらせむとす
るに、この歌の本、さらに忘れたり。「いとあやし。同じ古言といひながら、知らぬ人やはある。ただここのとおぼえながら
言ひ出でられねば、いかにぞや」など言ふを聞きて、前にゐたるが、「下ゆく水」とこそ申せ」と言ひたる。などかく忘れつるな
らむ。これに教へらるるも、をかし。

(注)

* 右中将 源経房。

* 宮 定子が仮住まいをしている高階明順邸。

* 御前 中宮の御座所の前庭。

* 宰相の君 中宮定子付きの女房。

* 左の大殿 左大臣藤原道長。

* 長女 中宮のもとにいる下仕えの女。

* ここにてさへひきしのぶるもあまりなり 〓私の家に来てまでも声をひそめるようにするのもあまりなことだ、の意。

* 山吹の花びらただ一重を包ませたまへり 〓わが宿の八重山吹は一重だに散り残らなむ春のかたみに 〓拾遺集春を踏ま

えた中宮定子の行為。

* 「言はで思ふぞ」 〓心には下行く水のわかかへり言はで思ふぞ言ふにまされる 〓古今六帖による。

* 「ここなる所に、あからさまにまかりてまゐらむ」 〓近所でもちよつと用足しをして、後ほどかがいましょう」の意。

* 本 和歌の上の句。

問一 傍線部1「ことさら露置かせて御覽すとて」の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **23**。

- ① 特別に露が置いているところを写しているということ。
- ② ことさらに水を撒いて眺めようということ。
- ③ わざと雑草を生い茂らせて寂しく見せようということ。
- ④ わざわざ草に露を置かせてご覧になるということ。
- ⑤ 臨時に露を置かせて水を集めようということ。

問二 傍線部2「必ず候ふべきもの」とあるが、誰が「候ふべきもの」だといふのか。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **24**。

- ① 右中将
 - ② 伊周と隆家
 - ③ 清少納言
 - ④ 定子
 - ⑤ 女房たち
- ① 女房たちから清少納言へ
- ② 女房たちから右中将へ
- ③ 右中将から清少納言へ
- ④ 右中将から女房たちへ
- ⑤ 右中将から中宮定子へ

問三 傍線部3「語り聞かせたてまつれとなめりかし」とあるが、誰から誰に「語り聞かせたてまつれ」といふのか。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **25**。

問四 傍線部4「牡丹」(植物の「ぼたん」)は和歌にはあまり詠まれず、漢詩に多く用いられる。「色即為貞白/名猶喚牡丹」(菅原道真「法花寺白牡丹」)のような用例があるが、傍線部「名猶喚牡丹」に返り点を施せ。解答用紙(その2)を使用。

問五 傍線部5「人のにくしと思ひたりしが、またにくくおぼえはべりしかば」の部分には、同じ助動詞が二回使用されている。その助動詞を終止形の形で答えよ。解答用紙(その2)を使用。

問六 傍線部6「下よりまるる見ては、ふと言ひやみ、はなち出でたるけしきなるが」の部分について、i「下よりまるる」、ii「ふと言ひやみ」、iii「はなち出でたる」の動作主(主語)はそれぞれ誰か。最適な組み合わせを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

- ① iは清少納言、iiは同僚の女房たち、iiiは同僚の女房たち
- ② iは同僚の女房たち、iiも同僚の女房たち、iiiは清少納言
- ③ iは同僚の女房たち、iiは清少納言、iiiも清少納言
- ④ iは中宮定子、iiは清少納言、iiiは同僚の女房たち
- ⑤ iは清少納言、iiは同僚の女房たち、iiiは「かかる所」

問七 傍線部7「言はで思ふぞ」と書かせたまへる」とあるが、こう書いた中宮定子の気持ちとして最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

- ① 心の中で思っているよりも、口に出していったほうがうまくいくこともあるのですよ。
- ② ことばでは言わないけれど、私もあなたのことが嫌いだったのですよ。
- ③ ことばで言わないほうが誤解されずにすむこともあるのですよ。
- ④ 黙って自邸に引きこもっているあなたの気持ちは分かっていますよ。
- ⑤ 口に出しては言わないけれど、私はあなたの帰参を心待ちにしているのですよ。

問八 傍線部8「知らぬ人やはある」とあるが、「何を知らぬ人」なのかの「何を」にあたることばを補いつつ現代語訳せよ。解答用紙(その2)を使用。

問九 傍線部9「ただこことにおぼえながら」の意味として最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **28**。

- ① 今にも思い出せそうなのに
- ② 自分ではつきり憶えているのに
- ③ 相手にとって不足はないと思われるのに
- ④ ちょうど憶えたところだったのに
- ⑤ 手に入れるのは簡単だと思ったのに

問十 傍線部10「これ」は何を指すか。最適なものを次の①～⑤の中から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **29**。

- ① 長女
- ② 下ゆく水
- ③ 和歌のことは
- ④ 前にいた人
- ⑤ 山吹

問十一 『枕草子』の作者清少納言とほぼ同時代の人物を次の①～⑤の中から一人選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **30**。

- ① 小野小町
- ② 鴨長明
- ③ 兼好法師
- ④ 松尾芭蕉
- ⑤ 紫式部

